

赤坂

学力特集号(19号)

令和元年10月31日
北九州市立赤坂小学校

【学校教育目標】

自ら学び考え、心豊かで、
心身ともに健康な児童の育成

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	国語の領域では、「言語についての知識・理解」の正答率が他の領域に比べて、高かった。特に漢字を正しく使う問題では、正答率が全国平均を上回っている問題もあった。また、問題形式では、記述式の正答率が他の形式に比べて高かった。児童の「書く力」が向上していることがうかがえる。全体的に、問題を読むスピードが遅いためか、後半の問題の無回答率が高いことが課題である。
算数	算数の領域では、「数と計算」の正答率が他の領域に比べて、高かった。また、問題形式では、記述式の正答率が他に比べて高かった。図形についての理解はあるが、図形の性質や構成要素に着目して、他の図形を構成するなどの考え方に課題がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について肯定的な回答の児童の割合が、100%であったので、引き続きいじめは絶対にいけないという意識を持続させていきたい。・「朝食を毎日食べている」児童の割合が、全国と比べても低いため、家庭との連携を図り、改善していく必要がある。北九州市の傾向として、朝食を毎日食べる児童の方が、食べていない児童に比べ教科正答率が高い。・児童の自己肯定感を高め、「人の役に立つ人間になりたいと思う」「自分には、よいところがあると思う」と答えている児童を増やし、100%に近づけていきたい。行事や日常の小さなことでも、できた後にしっかりと認めてあげていく意識を持った指導が必要である。・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国と比べても低いので、家庭学習や自主学習の仕方などを徹底させていく必要がある。・「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたと思う」児童の割合が、全国と比べても低いので、本校の主題でもある「伝え合う力の研究」を進めていきたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・毎週火曜日と木曜日に「文章を読む力」「言語の力」を高めるために、朝自習の時間に「漢字フラッシュカード」「音読暗唱ひまわり」に取り組む。
・掃除時間後に、毎日国語と算数のチャレンジタイムを実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用等を通して、週末に宿題以外の学習(自主学習)に取り組む習慣をつけさせる。